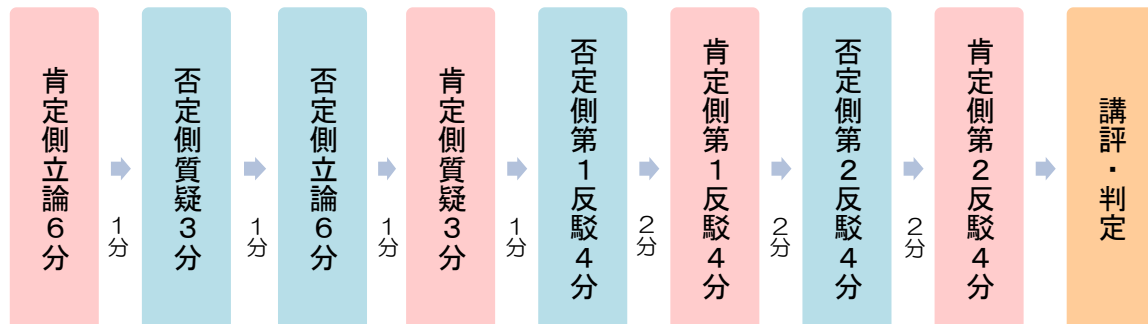




2024 MOIS CUP HIGH SCHOOL JAPANESE DEBATE RULE BOOK

Japanese Debate System 日本語ディベートのシステム



立論（6分間）

立論では、自分たちの立場を支持すべき理由を述べます。例えば肯定側であれば、論題を肯定することでどのようなメリットが発生するか（生じるメリットの大きさ・発生確率・発生過程など）を論証します。

立論で述べなかった内容を第1反駁以降に持ち出しても、それは「新しい議論」となり、判定には考慮されませんので、注意してください。

質疑（3分間）

質疑は相手の立論の内容を確認するための場です。反論を行う場ではなく、反論の糸口を見つけるためのものです。質疑の内容は判定材料にはなりません。回答者は立論を述べた人が担当し、回答内容は立論の補足として扱われます。

第1反駁（4分間）

第1反駁は相手の主張に対する反論を行う場です。メリットとデメリットの大きさを比較し、自分たちの立場が相手より上回る理由を述べます。

第2反駁（4分間）

第2反駁は2回目の反論機会です。相手の第1反駁を受けて、争点について再反論を行ったり、まとめを述べたり、自分たちが勝っている理由を説明したりします。ディベートでは反論の機会を十分に確保しなければならないという決まりがあるため、立論で扱わなかった内容を新たに述べることはできません。また、第1反駁でも述べる事ができた内容を第2反駁で述べることを「遅すぎる反論」といい、判定には考慮されません。

準備時間（1分間または2分間）

各スピーチの前には1分間または2分間の準備時間があります。



ルール

- ・それぞれのチームは3人から4人で構成されています
- ・肯定側、否定側は当日に決定します。
- ・視覚資料（スライドなど）を使用することはできません。
- ・基本的には立論・質疑・第1反駁・第2反駁のそれぞれを1人が担当します。
チームの人数によっては分担して構いません。
- ・1人のディベーターが話している間、他のディベーターは発言することができません。
- ・ディベート内で資料を引用する際は、以下のことに気を付けてください。

- ① 原典の文面をそのまま引用すること。
- ② 中略する場合は文意を損なわない範囲で行うこと。
- ③ 引用・中略場所を明示すること。
例：「……から引用します。『……中略……』引用終わり」
- ④ 出典を明らかにすること。

例：書籍の場合 著者・書名・発行年・引用ページ数

※ 資料や根拠の内容が「友達から聞いた」「アンケートをとった」というようなものだった場合、信ぴょう性は低くなります。判定の際に評価されませんので注意してください。

- ・試合で引用する可能性のある証拠資料についてはあらかじめ紙で用意をし、以下の情報を掲載してください。

①引用箇所 ②出典（APAスタイル） ③ネットからの引用の場合はスクリーンショット

④数値等のデータを使って独自の計算をし、計算結果を証拠資料とした場合はその計算式

- ・試合中の各準備時間に、相手チームがそれまでに引用した証拠資料及び出典に関する情報の提出を求めることができます。
- ・審判あるいは相手チームから、それまでに引用した証拠資料の文面等の提出を求められた場合、その準備時間中にその証拠資料をすみやかに提出しなくてはなりません。
- ・証拠資料の文面等の提出を受けたチームは、その準備時間の終了までに証拠資料の文面等を返却しなければなりません。

ディベートにはマナーが欠かせません。ディベートとは、厳格なルールに基づいて議論をすることです。両者の言い争いではありません。視線を合わせること、適切な声の大きさと話すこと、ジェスチャーを使うことは、ディベートで覚えておくべき重要なポイントです。これにより、聴衆を効果的に説得することができます。

MOIS CUP のシステムは全国中学・高校ディベート選手権のルールをもとにしています。

全国中学・高校ディベート選手権ルール <https://nade.jp/koshien/rules/rule/>

